

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成 19年 8月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	4071100962		
法人名	協栄興産株式会社		
事業所名	ふれあいの家 高宮		
所在地 (電話番号)	福岡市南区高宮2-18-15	(電話) 092-521-5982	
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F		
訪問調査日	平成 19年 7月 14日		

【情報提供票より】(平成 19年 6月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 3人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 (単独)	新築 (改築)
建物構造	木造	
	2 階建ての 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	(有) 円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 500,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	500 円	昼食 500 円
	夕食	700 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成19年 6月 25日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.4 歳	最低 82 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	百年橋クリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな住宅地で、大きな民家を改築したグループホームであり、周囲の住宅と違和感なく溶け込んでいる。門扉に木製の看板を立て、そこから玄関口までの庭園の緑が美しく心が和まれる。車いす利用者の移動には、通りから玄関口まで長いスロープを設置し安全な移動を支援している。食事は入居者と職員と一緒に調理をし、配膳から片付けまで入居者は自ら進んで家事をされており役割を持っている。また、研修生や実習生を多く受け入れ、ホームについての意見を聴くなど、前向きに取り組み、後輩の育成にも努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価をホームの掲示板に掲載し、家族などの訪問者がいつでも見ることができるようにしている。評価を職員で共有し改善に取り組んでいる。他に研修生・実習生からも気づきなどを聞き入れている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表は管理者が作成している。サービスの評価の意義や目的に関して、ふれあい本部・管理者・職員全員で話し合い改善に向けて前向きに取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は開催しているが、花見・もちつき・敬老会の行事として開催し、ホーム以外の参加者は民生委員だけである。今後は2ヶ月に1回以上開催し、地域の方や地域包括支援センター等の職員にも参加していただき地域との交流促進を図り、ホームの活動状況や入居者の状況、外部評価結果と改善の取り組みなどを報告し、これについて助言や意見を聴き前向きに取り組むことが望まれる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	毎月「ふれあい通信」などを家族に送っており、生活状況・レクリエーション・イベント等を知らせている。職員の異動も家族に報告をしている。契約時に苦情相談窓口の担当者・公的機関の窓口を説明している。また、家族が面会時に話しやすい雰囲気をつくり声かけをして意見など聞くようにしている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の廃品回収や清掃、地域の行事等に参加しホームの理解を得ている、隣近所・商店の方がホームの入居者の顔や名前も覚えてくれている。今後は運営推進会議を通して地域との連携を強化し、災害時に互いに助け合える協力的体制作り等が望まれる。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく一人ひとりに合った生活ができるように、認知症の進行を穏やかにし、健康で明るい生活が地域と共に行えるようにすることを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員がいつでも見ることができる階段上り口に掲示し常に見るように伝えている。新規採用者には書面を持って分かりやすい言葉で説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の廃品回収や清掃、地域の行事に参加しホームの理解を得ている。隣近所・商店の方がホームの入居者の顔や名前を覚えてくれている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価表を掲示し、家族や訪問者が見ることができるようにしている。評価を職員で共有し改善に向け話し合いに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催しているが、花見・もちつき・敬老会の行事として開催し、ホーム以外の参加者は民生委員だけである。	○	地域の方や地域包括支援センターの職員等に参加していただき地域に開かれたホームとして、ホームの活動状況や入居者の状況、外部評価結果と改善の取り組みなどを報告し、これについて助言や意見が聴かれるような取り組みが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修施設として訪問介護・看護学生・認知症介護実践者研修等の受け入れはしているが、市町村担当との関係作りはできていない。	○	市町村担当者にホームの現状やサービスの取り組みなどを報告し、協働関係を構築される事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がおられ、実践にて学習ができています。他の入居者にも必要に応じ支援ができる体制ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ふれあい通信」を家族に送っており、生活状況・レクリエーション・イベント等を知らせています。職員の異動も家族に報告をしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情相談窓口の担当者・公的機関の窓口を説明している。また、家族が面会時に話しやすい雰囲気をつくり声かけをして意見など聞くようにしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の採用時に希望の職場を開き、一定期間で異動するケースがある。また体調不良等での離職者もいるが、利用者へは担当者を決めダメージがないように配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に当たっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。また職員の勤務地希望等を聞き入れている。また、レクリエーション・作品作り・大工仕事など職員の得意な事が生かせるようにしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は利用者の人権を尊重するために、個々の入居者の背景を十分に踏まえ、職員に毎日の生活の中で指導する事を心がけている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修をして報告書を記載しているが、外部の研修参加の機会が確保されていない。	○	内部研修は職員の希望や、勤務体制にあわせ交替で受けているが、認知症介護実務者実践リーダー研修や・外部研修等の受講機会を確保される事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の交流機会はあるが、他事業者との交流はしていない。	○	グループ内の交流と共に、地域の同業者との交流を持ち、見学や相互研修を通してより一層のサービスの向上に取り組む事が望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とホームの見学をしてもらい、入居前には3日～4日体験入居を行っている。事前に自宅を訪問して家族・入居者にホームの説明をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の能力に合わせて共同生活ができています。食事の支度など入居者が進んで活躍している。礼儀作法については入居者から学ぶ事が多く良い関係ができています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の事前調査で希望や、意向をきき取っている。入居後も利用者や家族と話をすることで希望や意向を聞き取るように努力をしている。		
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当と管理者が話し合い原案を作り、月1回のミーティングで意見を出し合っている。家族には面会時や電話で意見を聴取している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っており、変化が生じた場合は、家族や、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が都合の悪い時は職員が受診の付き添いを行っている。馴染みの美容室がない場合は近所の美容室へ職員が同行している。		
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週主治医の定期受診がある。他科受診の希望があるときは、家族が対応をしている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に「看取りの同意書」を書いていただいている。家族、主治医との連携が取れる体制がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いには気をつけている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者の体調や希望にあわせた柔軟な対応をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、材料を刻んだり、一緒に盛り付けを行ったりしている。食事は職員も一緒にとっている。調査時も錦糸卵をリズムカルに刻んだり、盛り付けをしたりと職員と会話を楽しみながら一緒に食事の用意をされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を希望される方には毎日入浴をして頂いている。夕食前に入浴を希望する入居者が多いが、対応できている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の食事の用意や、洗濯物たたみ、庭の花の植え替え、習字等一人ひとりの生活歴や趣味等を活かした支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回の食事会や地域の行事、散歩等希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不法侵入者が多いという情報があり、危険回避の為に終日鍵を掛けている。	○	危険を回避する事は非常に重要であるが、センサーでの感知等、鍵を掛けない工夫が望まれる。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年11月に消防署と一緒に避難訓練が行われた。定期的に消火器の点検も行われているが、夜間設定の訓練が行われておらず、地域の人々の協力体制作りが十分に出来ていない。	○	夜間想定避難訓練や、運営推進会議等を利用し、地域の人々の協力体制作りが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスを考え調理をしている。食事摂取量、水分摂取量が記載されており、職員は情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物を刻む包丁とまな板のリズミカルな音、調理をしながらの会話の声、民家のつくりをそのまま利用した食器棚など、入居者が自分の住まいだと思えるような生活空間がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたタンスや三面鏡、趣味で描いた絵が居室に持ち込まれ、廊下には趣味で描いた習字が飾られている。</p>		